

## 国際教育協力研究の充実のために

鳴門教育大学教員教育国際協力センター  
所 長 香 西 武

21世紀に入り、国際関係もあらたな局面に入った。そのため、持続可能な社会の実現というキーワードの基に、これまでに獲得してきた人類の英知を再構成しなければならなくなっている。教育に関しても持続可能な社会の実現に資する教育、すなわち「万人が恩恵を受け続ける教育」の構築を目指して取り組んでいかなければならない。そのためには、互いの文化、宗教、思想を尊重しつつ、いかにして相互協力を行うかという教育協力研究が喫緊の課題である。

教員教育国際協力センターでは2005年設立以来、開発途上国の教育力向上のために、ICT教育、理数科教育、国際教育開発を軸とした教育支援とそのあり方を研究してきた。さらにその成果を広く問うために、本誌を発刊し、これまでに東南アジア、アフリカを中心に20数か国を取り上げ、教育向上のための研究論文を公表してきた。これらの研究論文は、教育力向上の具体的取り組みを基盤とし、そこから得られた知見をもとに議論深め、今後の方向性を示したものであり、「万人が恩恵を受け続ける教育」の構築に大きく寄与するものであると考える。本誌で第6号となるが、今後さらに充実・発展させることをねらい、本号から査読制を取り入れた。これにより、以前に増して多面的な意見に基づく論文を掲載することができよう。

また、本号で提案する国際教育カリキュラムの全容は、持続可能な社会の実現への寄与及び貢献のために、本学としてどのようなカリキュラムを構成できるかを示すものである。このモデルに示される具体項目は関係諸機関で異なることと思うが、国際教育協力を構造化するための一つのモデルとなるものと考え。

今後さらに本誌が、「万人が恩恵を受け続ける教育」の具体を提言できる専門誌として発展することを願っている。

(平成24年6月)